

平成29年度第5回石狩市浜益区地域協議会議事録

日 時：平成29年10月24日（火）15：30～16：40

場 所：浜益支所庁議室

資 料：会議次第
浜益区地域協議会委員名簿

資料1

＝会議次第＝

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 委員紹介
4. 市長あいさつ
※市長と委員の意見交換（休憩中）
5. 職員紹介
6. 会長及び副会長選出
7. 閉 会

出席者：24人（委員12名、職員12名）傍聴人：1名

委 員			職 員	
役 職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会 長	宮田 勉	○	(本庁) 石狩市長	田岡 克介
副会長	大久保満彦	○	(支所) 支所長	松田 裕
委 員	寺山 広司	○	(支所) 地域振興課長兼都市整備課浜益支所担当課長	木村 新吾
委 員	門脇 弥	○	(支所) 地域振興課観光担当課長	成田 和幸
委 員	小田 則貞		(支所) 市民福祉担当課長併任浜益生涯学習課長	笹 富雄
委 員	三上 正信		(支所) 保健福祉担当課長兼はまます保育園長 兼浜益国保診療所庶務課長	若狭 康晴
委 員	辻 カヨ子	○	(支所) 地域振興課主幹	羽立 欣一
委 員	羽立 裕子	○	(支所) 地域振興課地域振興担当主査兼産業振興担当主査	藤巻 誠一
委 員	岸本 紀子	○	(支所) 地域振興課産業振興担当主査兼地域振興担当主査	柿崎 恵一
委 員	中元 義晴	○	(支所) 地域振興課地域振興担当主任兼産業振興担当主任	須田 恒
委 員	渡邊真奈美	○	(支所) 地域振興課産業振興担当主任兼地域振興担当主任	渡辺 善仁
委 員	小笠原輝幸	○	(本庁) 企画経済部企画課長	本間 孝之
委 員	徳地 克実	○		
委 員	石川 宗	○		
委 員	瀧 勝明			

1 開 会

【木村課長】

皆様、本日はお忙しい中お集まり頂きありがとうございます。

私、当地域協議会の事務局を担当しております浜益支所地域振興課木村と申します、よろしくお願いたします。本日は委員改選後初めての協議会でございますので会長が選出されるまでの間、私が進行を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

只今より平成29年度第5回浜益区地域協議会を開催いたします。

2 委嘱状交付

【木村課長】

大変恐縮とは思いますが、委員委嘱状につきましては予めそれぞれの席に配布させていただいておりますのでご了承いただきます。

3 委員紹介

【木村課長】

委員の皆様にご自己紹介をしていただきたいと思います。大久保委員から一言ずつお願い致します。

1 ページ出席者委員一覧（自己紹介）

4 市長挨拶

【木村課長】

次に田岡市長よりご挨拶申し上げます。

【田岡市長】

皆さんこんにちは、協議会が始まるということで、委嘱状を発行させていただきました。

今7期の中に、例えば浜益に1億円というある程度自由度のあるお金がありました。そのうち具体的に残っているのはいったい何をやったのか聞いたら、ひとつは苗の育苗施設とそれからサクラノボの雨避けハウス事業を行ったということで、また4千万円が残っているということなのですが、一つの事業で使うと1億円というのはあっという間に無くなって、ちなみに厚田はこれという事業をやってなくて、おそらくほとんど手付かず残っているはずですが。道の駅に使用して行きたいと思っていますけれども、なかなか自分たちの労働力を二つに割くということが、現実に人手不足でたりなくて、資金があってもなかなか事業化が出来ないということ、厚田地区でも事業化が難しいということは今課題になっております。道の駅のように売れるところがあっても生産力が無い、生産力が無いのではなく、人手が足りないという問題にぶつかっています。現実に動いたときにはいろいろな方法を考えると思います。

ぜひこれから、新しい第7期の中で具体的に4千万円をどういうふうにするかという話を、最初に予算を出しておいて、これを生かすお金にするというのは、4千万円で足りないときには当然予算というのは、まだまだポケットがありますので、国、民間から、あるいは市からの、そういうことも出来ますので、事業全体をどういうふうにするのかというのは、必要な段階にきているというふうに思っております。

来年は合併以来待ち続けたといってもいいと思うのですが、この間、中学生の議会に浜益ってどういうふうになっているのか、これからどういうふうになりますかという質問に対して、相当議会では言いつらい言葉を含めて、夢と現実を語りました。その中に浜益地区の線になっていない観光資源というか、様々な資源を見える化しようということになって、来年度予算をつけることになっております。例えば千本ナラをひとつ見ても、まあ千本ナラだなど、イチイの木ひとつ見ても、というふうにたくさん浜益には潜在的なものがあります。ただそれがオール日本で、あるいは世界の中でどういう位置づけにあるか、どういうふうになっているかという、世界ではたった一つしかないものが沢山あります。私がすぐ思うのはユーカラです。浜益のユーカラを読み直してみましたけれど、非常に土壌地としては最高の、そしてこの石狩エリアの中で浜益がいかに中心的役割を果たしてきたかというのが出てきます。それらを含めて、沢山潜在的にあるものをどう見える化するかということで、新年度は文化的、生物学的なものを含めて、あるいは鉱物といいますか、地質、植物あらゆる浜益にある学問的な位置づけをしっかりとしようということで、すでに教育委員会は文化財の旧八田さんの家を調査すると、坂本さんの家も本当は見たいのですが、逆に外から浜益に行くと嘉永年間に出来た家があるという資料が出てきて、それが現存しているというので、側はぜんぜん違うのですが、そういう水準の中では浜益というのは庄内藩の跡をどういうふうに発掘するか、巨木文化をどうするか、アイヌ文化をどうするかというのは、2年後に白老の国立博物館が出来ます。その博物館の中で、浜益というものはどういうふうに表示したらいいのかというのが、いまひとつの宿題になっております。そういう見える化をこれから行うために専門家筋、あるいは地域の皆さんの協力を頂いて1年間調査に入るということです。おそらく1年では終わらないと思います。

最後に温泉に入ってもらうために、こことこことこをこういうふうに見るとすればいい、あるいは山道にトレッキングをしてもらって、どうするかというようなことで、いろいろな事業が組み立てになるのではないかと考えております。

この間CBツアーズの社長と小樽で偶然に会ったのですけれど、その時も熱っぽく浜益を語っておいりました。ビジネスとしても浜益には人を連れて行けるといことなので、それらをベースに具体的に今度は、浜益は何を売るかも考えていくタイミングになってくるのではないかとこのように思います。

私は白鳥番屋を「きらり」の前に移して、それが道の駅の機能を持ったらどうかと思ったら、市長、協議会に行ってそんなこと言わないでくださいと、とつても予算が付きませんと、文化庁の予算はほんのちょっとなんです。移転することになると数億円掛かります。数億円掛かるならもっと浜益のために違うことがあるのではないかと、という話も出ておりました。これも大きな宿題だと思います。地域の皆さんがどうするかという声がある程度集約しないと、もうあのとおり壊れるだけです。そこを残すということに、地域の皆さんの声の数億円の値を見つけるかどうかということだと思います。市役所でやると維持管理が持たないということで、壊すという方向に向かう可能性があります。その辺も具体的に反対運動でなくて、こういうふうにしたら残るのではないかとこのことを、みんなで考える必要があるのではないかとこのように考えております。例を挙げたら潜在的な方向性が沢山あると思います。

9月14日の大雨、本当に大変だったというふうに思います。人的被害も後に1名がいたということで、ちょうど東京に行って人災が無かったですと言っている最中に電話が入って、いまは修正ですという話になったのですけれど、国の方も非常に動きが早いようでして、災害の方も直接担当課長に会えましたし、政府の要人で災害対策の自民党金田衆議院議員にも会えました。そのようにしておそらく国の費用も出ます。直ちに議会中だったので、5千万円の予算を組んで、この30日に災害の普及のための予算が2億数千万、それから直轄といいますか国の方の予算が出ます。昨日林野庁の局長と会いましたけれども、林野の方も非常に心配しておられて、かつての様にビター文もという話ではなく、結構積極的な対応をしていただきましたので、復興の方はものによっては時間が掛かりますけれど、財源の手当ては第1段階では終わったという状況になっております。おそらく迎え撃つのではなく、これからどう積極的に災害防止をするかということも含めて、必要になってくるというふうに考えております。門脇さんの横を見てきたのですが、あらためてあんなところに沢があったのかと、あれを黙っておくとまたいつてしまうのではないかといま感じております。10月10日現在の被害額が2億6千6百万円となっております。

浜益地区に今言った調査団が入ってくるときに、一緒になって調査に付いて頂く、あるいは2、3日お相手をしてもらうことは、場合によってはお願いすることになるかも知れません。今のところ、北大か慶応大学かどちらか、あるいは合同になるか、ユーカーは専門家がいるので滝川の大学が入ってくるかも知れません。開拓記念館が入ってくるというような形で、今その準備を進めております。1回浜益とはこういうところだ、というものを作って行きたいと考えております。

何はともあれ、皆さんにまたお力を貸していただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

【木村課長】

ありがとうございました。それではここで休憩いたします。

5 職員紹介

【木村課長】

会議を再開いたします。それでは松田支所長より職員を紹介させていただきます。

【松田支所長】

あらためまして浜益支所長の松田です。第7期ということで市長もいろいろと思いがあつたと思えますけれども、市長は浜益に対して非常に思い入れの強い方で、いろいろな部分で協力をしたいという気持ちを持っているので、いい意味でこの協議会の中でいろいろな話をして、創意活性化の方につなげていければと思います。事務局を含めて私どもも真摯に取り組んでまいりますので、ぜひよろしくお願い致します。

職員を紹介いたします。隣から随時お願いします。

6 会長副会長の選出

【木村課長】

続きまして会長副会長の選出について、でございますけれども、どのような方法で選出したらよろしいでしょうか。ご意見を頂きたいと思っております。どなたかご意見があればお願いいたします。

【寺山委員】

会長に宮田勉さん、副会長に浜益区自治会連合会の久保さんをお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

【木村課長】

ただいま寺山委員より、推薦という形で会長には宮田委員、副会長には久保委員とのご意見が出されましたけれども、他にご意見はありませんでしょうか。

【委員多数】

ありません。

【木村課長】

それでは他にご意見が無いようですので、会長には宮田委員、副会長には久保委員を選出したいと思っております。よろしく申し上げます。

【出席委員全員】

はい。

【木村課長】

それでは会長に選出されました宮田会長により、一言ごあいさつを頂きたいと思っております。よろしく申し上げます。

【宮田会長】

それでは会長に選出いただきました宮田でございます。あらためましてよろしくお願い申し上げます。一言、ごあいさつ申し上げたいと思っております。

平成17年の10月に3市村の合併によりまして石狩市、厚田と共に進めてきたわけですが、12年が経過しております。その時に設置されました本地域協議会も13年目を迎えております。これまで6期12年間にわたり、多くの先輩委員の努力をいただきながら、地域の活性化、特色ある地域づくりをテーマに様々な事業を行政と共に展開してまいりました。しかし、区の人口は減少し続け、取り分け若い人達の転出は、区の様々な活動に大きな影響を与えております。残る区民は、いろいろな面で将来の不安を感じていることと思っております。ついに区の高齢化比率が55%を超えたと聞きました。空き家も増えております。解体跡地を見ますとつい肩を落とし、大きくため息をついてしまいます。

このような中で、浜益はどうなっていくのだろうといった意見も多く聞きます。浜益には先程市長も言われておりましたが、豊かな自然、歴史、風習、文化など優れた資源が多く残されております。しかし、これらが有機的に活用しきれていないとも言われております。この辺りが人材の育成確保とあわせまして、私達7期目の委員に課せられたテーマだなどと考えております。

浜益小劇場をはじめ、カラオケ愛好会、黄金山岳会、巨樹・巨木協議会などの地道な活動は内外から大きな支持を受けております。いまや区民の大きな財産といっても過言ではありません。また近年活躍著しい漁協青年部の朝市やみなと祭り、これは区民に沢山の元気と希望を与えてくれております。このような新しい芽を育て、守り続けることも大切であると考えております。

農家にも、浜にも独身の若者が結構おります。この人達がそれぞれの仕事に誇りを持ち、地域の後継者として自立し、いずれは新しい家庭を築いていただければ、こんな嬉しいことはありません。これからすべての区民が、明るく元気で安心して浜益に住み続けていけるよう、久保副会長をはじめ委員の皆様、そして支所の職員の皆様と協力し、あたえられた課題の克服に全力で取り組んでまいりたいと考えております。2年間よろしくお願い申し上げます。

7 閉会

【木村課長】

ありがとうございました。

次回の開催につきましては、決定しだい皆様にご連絡いたします。

本日は報告案件、協議案件は特にございませんので、以上をもちまして平成29年度第5回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦労様でした。

平成29年12月13日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮田 勉